

糸 芥川かおる 市政レポート

~KIZUNA~



第4号 広報誌「糸」
芥川かおる後援会
発行日：平成26年 1月
事務所：座間市入谷5-1874-5
発行責任者：野口利夫

平成二十六年の新春を迎え、謹んで皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。
今年一年も市政発展のため、より一層精進してまいりますので、変わらぬご指導を賜ります。
ようお願い申し上げます。

平成二十五年 第四回（12月）定例会



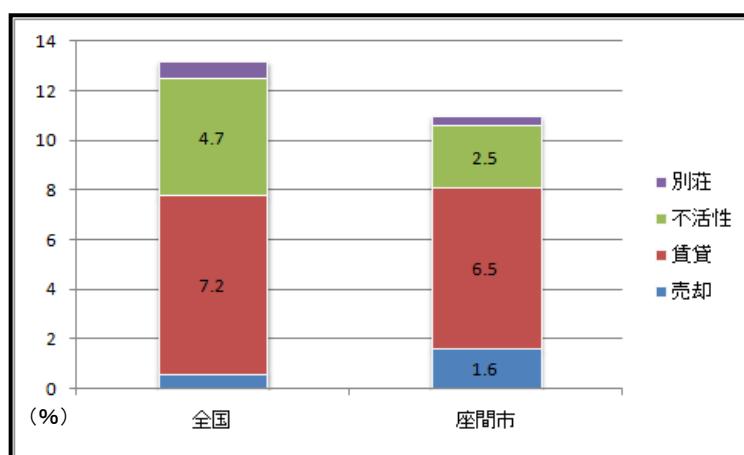
（質問二）空き家を活用し高齢者用サロンを

現在の本市の高齢化率は21%を超え、平成26年からは超高齢社会へとなり本市では2030年の人口予測が12万1000人に対し、高齢化率が25%、2040年では人口予測が11万1000人に対し、高齢化率が35・2%とされており、これは避けて通ることのできない問題であります。また、12年後には2025年問題もあり、超高齢化社会に対し先を見据えた対策をしていかなければなりません。

また、人口減少や高齢化並行して進んでいくのが医療費や空き家問題です。全国平均の空き家率13・1%に対し、本市の空き家率は11%と、全国平均よりも低いものの、県内においては決

	総人口(人)				増減率(%)		高齢化率	
	2005年	2010年	2030年	2040年	10/05年	40/05年	2010年	2040年
神奈川県	8,791,597	9,048,331	8,833,192	8,343,495	2.9	-5.1	20.4	35.0
座間市	128,174	129,436	121,132	111,805	1.0	-12.8	19.4	35.2

全国・座間市の空家率



そこで、空き家を活用することはできないでしょうか。空き家の持ち主に理解を得て、交付金などを利用し、改修工事を行い高齢者用の気軽なサロンを設置することについて見解をお示し下さい。

（福祉部長答弁）
自宅に閉じこもりがちなひとり暮らしの高齢者が増加する傾向のなか、地域で運営母体となる組織と調整し、今後、の交流する場が必要であり、空き家を利用するることは有効と考えます。

運営母体となる組織と調整し、今後、交付金や補助金の活用も含め、サロンを運営していくよう考えてまいります。

（質問二）地域のコミュニティを図る施設の必要性

現在、本市においては、2009年に開園された栗原コミュニティセンターなど8館の建設が進められました。

公共施設のない地域を優先とのことで入谷地区、座間地区、緑ヶ丘地区においては建設がされておりません。

特に入谷地区、座間地区においては、現在2地区で座間公民館を利用しているため、各団体がなかなか利用できない状況であります。また、入谷地区においては、市内でも人口が2番目に多い地区であり、さらに公民館所在地が入谷地区の一番西部に位置するため不備との声も聞きます。また、他地区に比べると、一定の人数を一堂に収容できる施設がないこともあります。地域コミュニティを図る機会が少ない様にも感じます。今後進む高齢化社会、災害時などの地域連携・活性のためにも両地区においてはコミュニティセンター建設が必要と考えますが、当局として率直にどう考えるかお聞かせください。

（市民部長答弁）

（市民部長答弁）
コミュニティセンターが地域コミュニティを支える拠点施設として日常から地域の方々の交流を通してお互いに支え、助け合いながら生活をしていくための重要な施設であること、市民要望が強くあることなど、その必要性も認識しております。しかしながら、未整備地区の用地確保の難しさ、さらに厳しい財政状況等もございますので、今後公共施設の利活用の中で長期的な視点に立つて考えてまいりたいと存じます。

いつでも市民目線！
皆さまのお声をお聞かせください。
市政へのご相談は…⇒

〒252-0024 産間市入谷5-1874-5
Tel:046-240-7616 Fax:046-240-7793